

2015年3月22日 於NOF新宿南口ビル セミナールームA

多様な言語文化背景をもつ子どもたちのリテラシー
フォーラム2

子どもたちのリテラシーを
多面的にとらえる

発表者：齋藤 ひろみ

多様な言語文化背景をもつ子どもたちのリテラシープロジェクト

H26-29 科学研究費(基盤B) 課題番号26284071 代表：東京学芸大学齋藤ひろみ

研究課題：地域・家庭の言語環境と日本生育外国人児童のリテラシー発達に関する調査研究

多様な言語文化背景をもつ子どもたちのリテラシープロジェクト

H26-29 科学研究費(基盤B) 課題番号26284071 代表:東京学芸大学齋藤ひろみ
研究課題:地域・家庭の言語環境と日本生育外国人児童のリテラシー発達に関する調査研究

1 研究の概要

(1) 目的

日本で生まれたあるいは幼少期から日本で育っている(以下、日本生育外国人児童)のリテラシーの発達に関し、その重要な要素である書く力の発達を、かれらの作文の分析を通して明らかにすることを目的とする。

(2) 方法

日本生育外国人児童の作文データを収集し、多様な側面から分析を行い、その結果を統合して、作文力の発達について考察する。

(3) 結果の社会的・教育意味

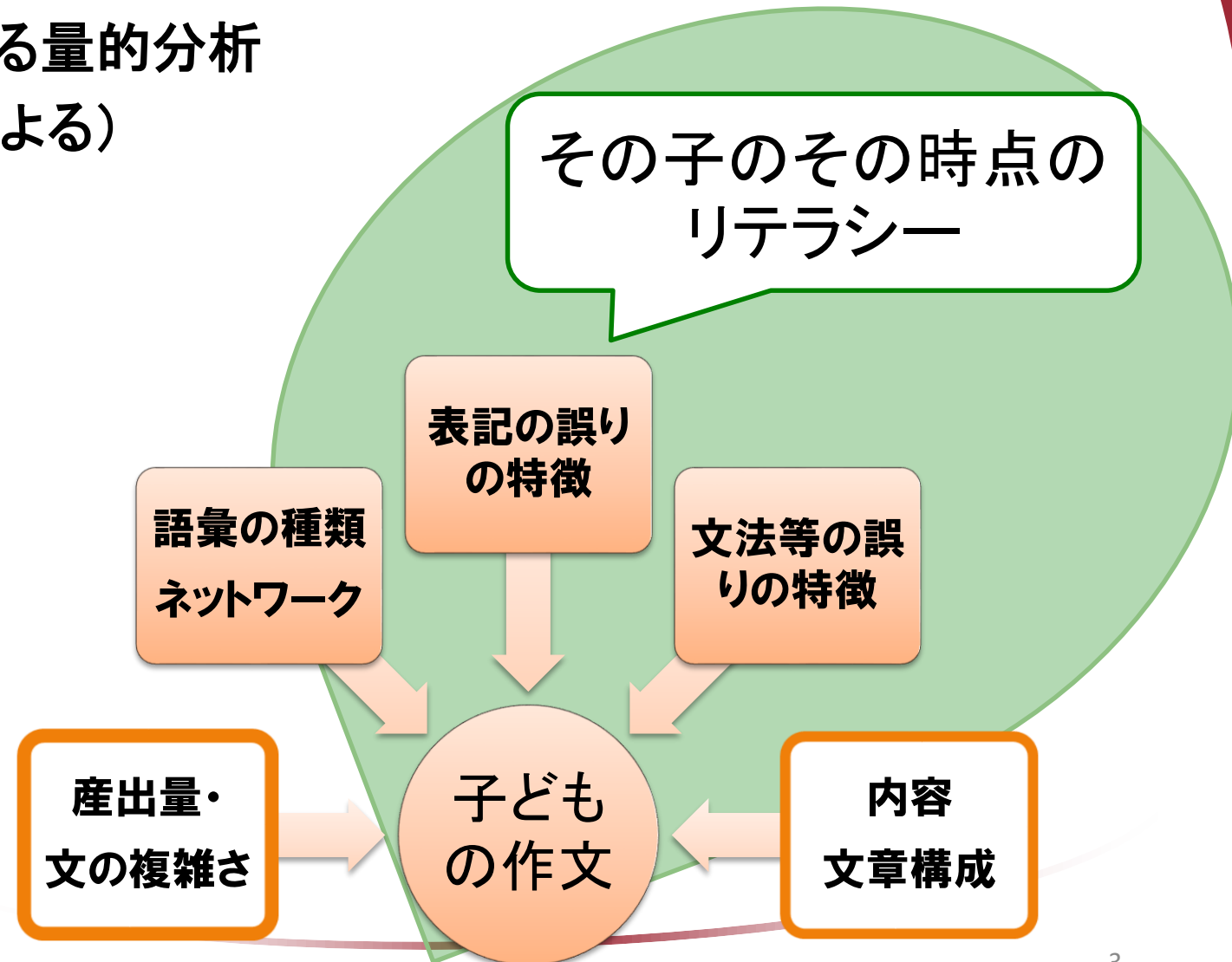
日本生育外国人児童への言語教育の内容と方法に関し有益な情報を提供

(4) 多面的な分析(これまでの)

- ①作文の産出量・文の複雑さに関する量的分析
- ②語彙の分析(テキストマイニングによる)
- ③表記の誤りの分析
- ④文法等の誤りの分析
- ⑤ルーブリック評価による内容分析
- ⑥エピソード分析による文章構成の分析



子どものリテラシー発達の
総体を捉えるための情報
(材料)



2 研究対象

(1) 学校

- ・首都圏の外国人が集住する地域の
小学校
- ・H25年度現在、全校児童(約160人)に
占める外国人児童は75%強
- ・日本生まれの外国人児童が80%以上
母国生れは20%以下
(その約70%が就学前来日)
- ・背景文化
ベトナム 1/2、中国 1/3、
その他にカンボジア、ラオス、ブラジル、
フィリピンなど

(2) 作文

- ・2008年より毎年6月に収集
- ・全児童(日本人児童を含む)の作文
- ・「全校遠足」をテーマとする「出来事作文」
- ・2年生～6年生までの作文
- ・教師の指導が入っていない

※外国人児童:

保護者が日本語以外の言語文化を母語・母文化とし、家庭内に日本語・日本文化以外の言語・文化がある児童生徒。日本籍をもつケースもある。

3 2008-2013作文の縦断調査結果(作文基本量)

対象作文 838作文

日本人児童作文(J) 281

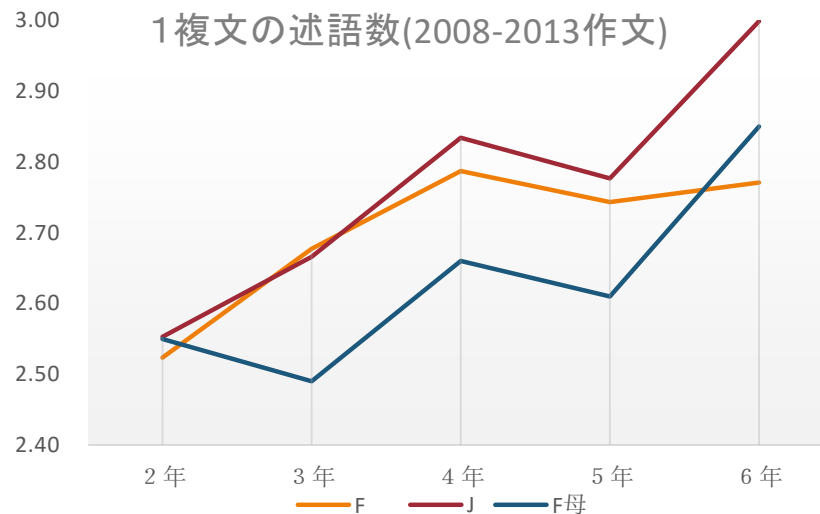
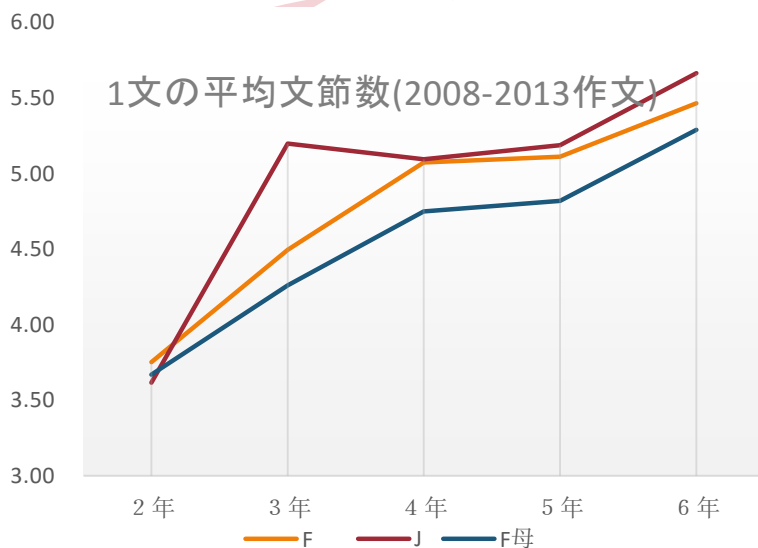
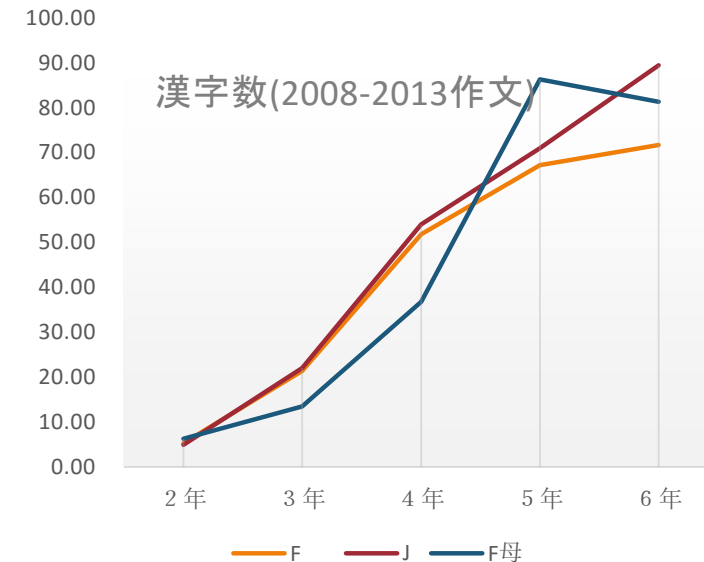
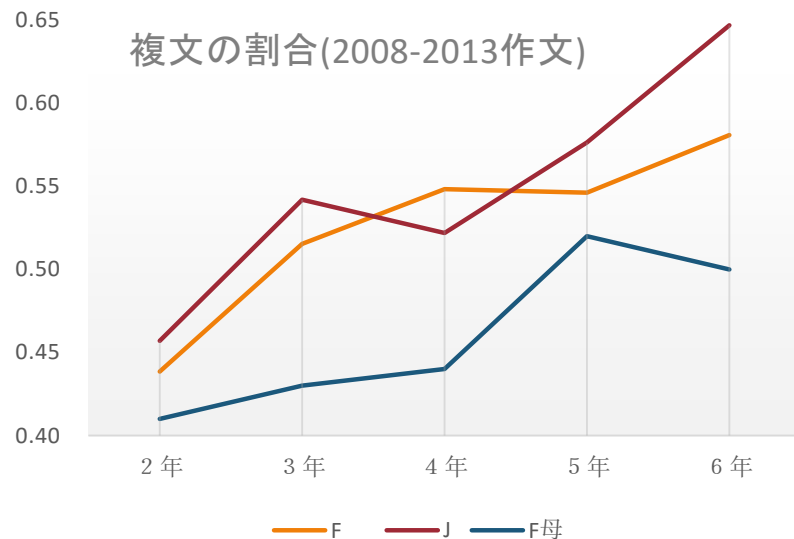
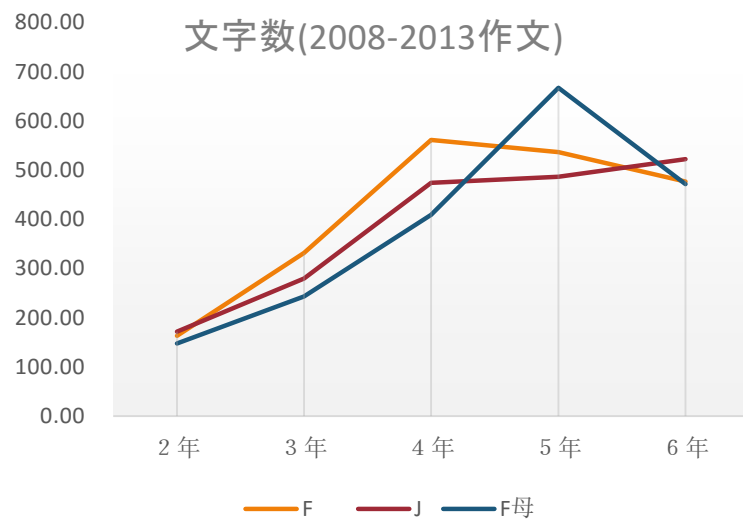
外国人児童作文 日本生まれ(F) 450

母国生来日(F母)107

	ベトナム	中国	カンボジア	ラオス	ブラジル	フィリピン	バングラディッシュ	国際結婚	計
F 450	274	93	34	28	1	2	7	11	450
F母 107	28	56	5	0	10	7	0	1	107
	302	149	39	28	11	9	7	12	557

2年 154	2 F	89
	2 J	46
	2 F母	19
3年 182	3 F	100
	3 J	53
	3 F母	29
4年 187	4 F	98
	4 J	68
	4 F母	21
5年 164	5 F	84
	5 J	60
	5 F母	20
6年 151	6 F	79
	6 J	54
	6 F母	18

4 作文基本量の分析結果(2008-2013作文)



齋藤他(2014)の
2008-2011作文の分
析結果と同じ傾向
⇒ 7 まとめ参照

5 後半「調査報告」の分析対象（縦断調査）

2007・2008年度入学児童の作文（2－6年の5年分の作文）

①産出量・文の複雑さ ②内容分析（ルーブリック評価による）

+ ③文字の誤り ④文法の誤り ⑤内容構成の分析

外国人 33人

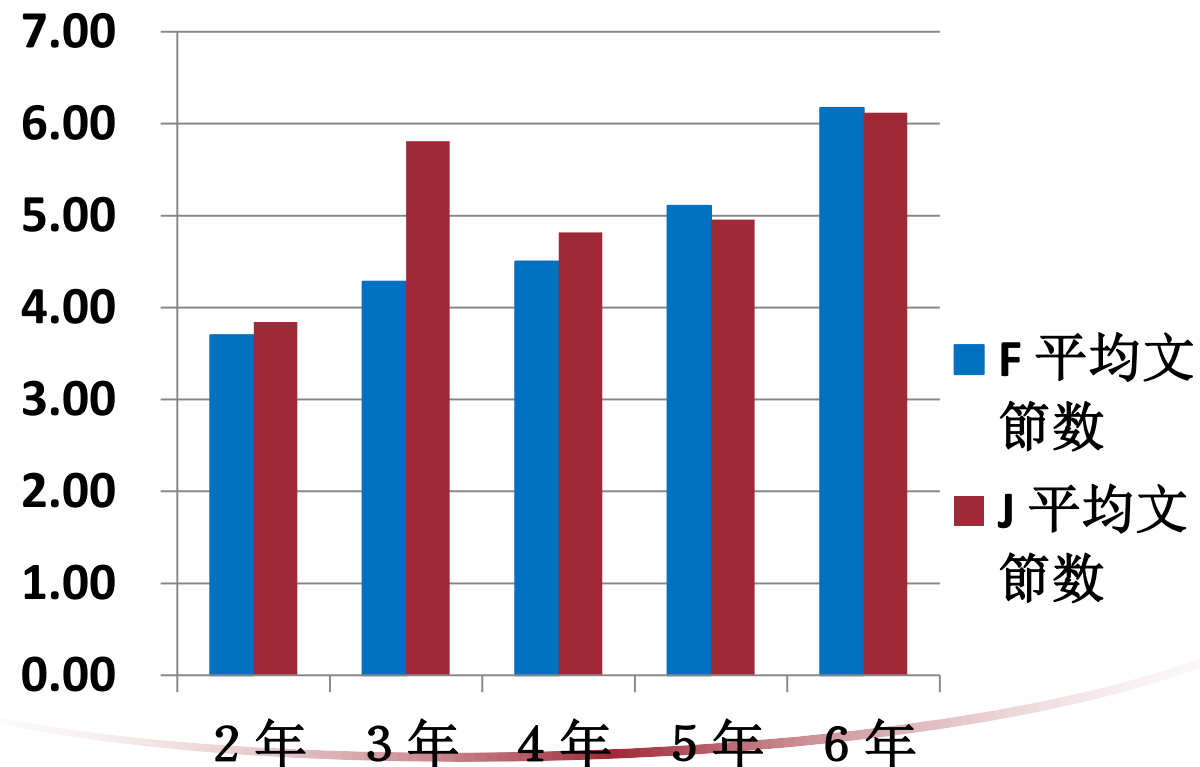
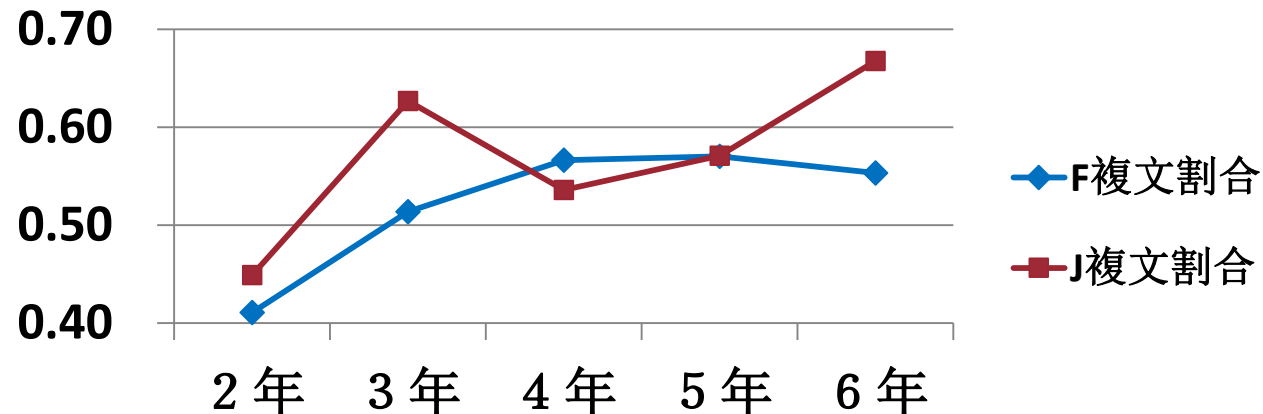
:ベトナム 20人 中国5人 カンボジア5人 ラオス2人 フィリピン1人

日本人 14人

	外国人児童(F)	日本人児童(J)	計	作文数
2007年入学	17	7	24	120
2008年入学	16	7	23	115
計	33	14	47	
作文数	165	70		235

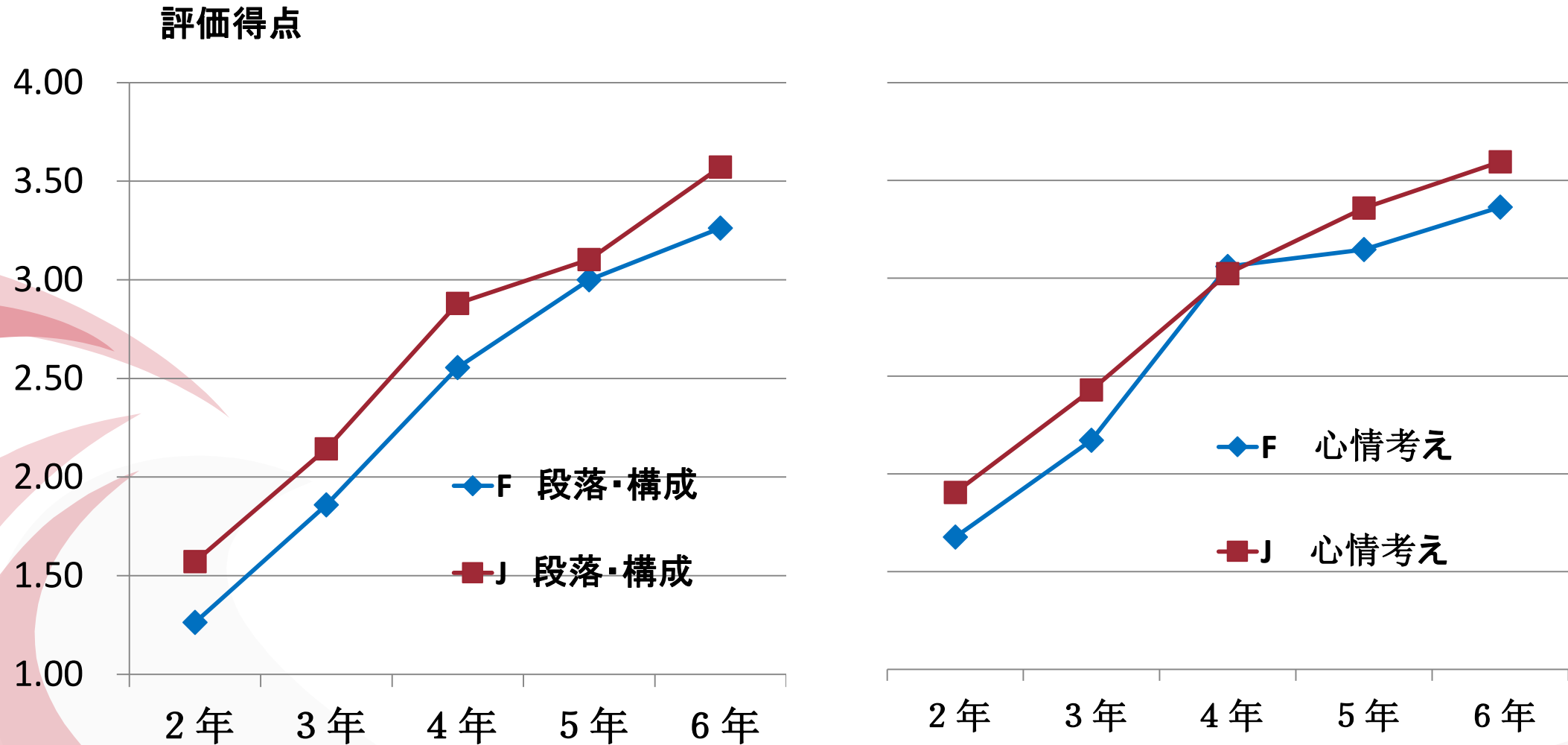
6 2007,2008入学児童の分析結果①

	文字数	漢字
2年F	210.21	8.21
2年J	281.64	10.86
3年F	384.39	21.30
3年J	388.57	28.50
4年F	635.82	54.27
4年J	555.00	60.64
5年F	420.15	48.18
5年J	379.57	50.14
6年F	482.15	67.61
6年J	560.29	101.43



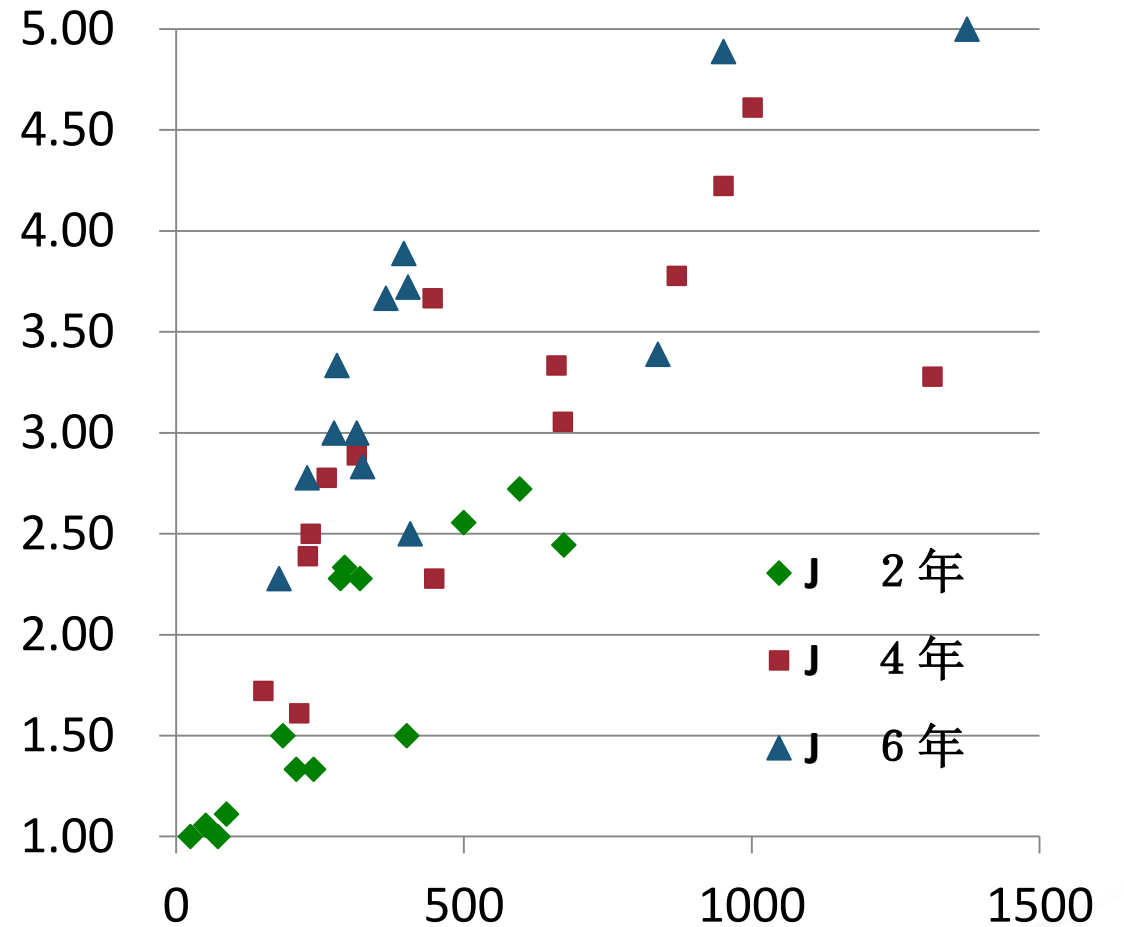
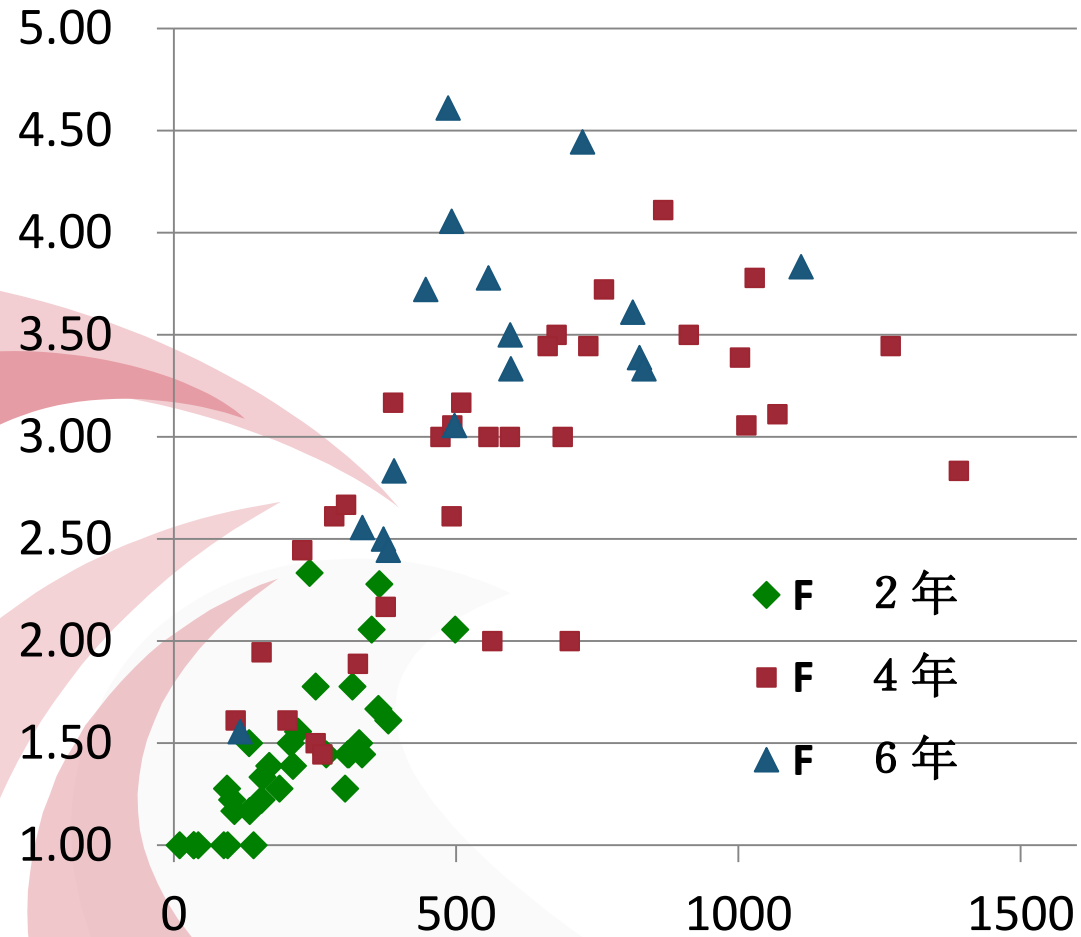
6 2007,2008入学児童の分析結果② (2項目)

「段落・構成」と「心情・考え」



6 2007,2008入学児童の分析結果

産出量(文字数:横)と内容評価(縦)



7 まとめ 調査結果から見えてきたこと

1 産出量・文の複雑さに関する計量分析から

- ・産出量: 中学年で FはJと同程度に
- ・文の複雑さ: Jが低学年、高学年で伸び。

Fは徐々に複雑になるが、高学年で伸び小。

2 ルーブリックによる内容評価から

- ・Fは内容面より構成面で、Jより遅れ気味に発達
- ・Jは、高学年の「心情・考え」の項目で更に発達。

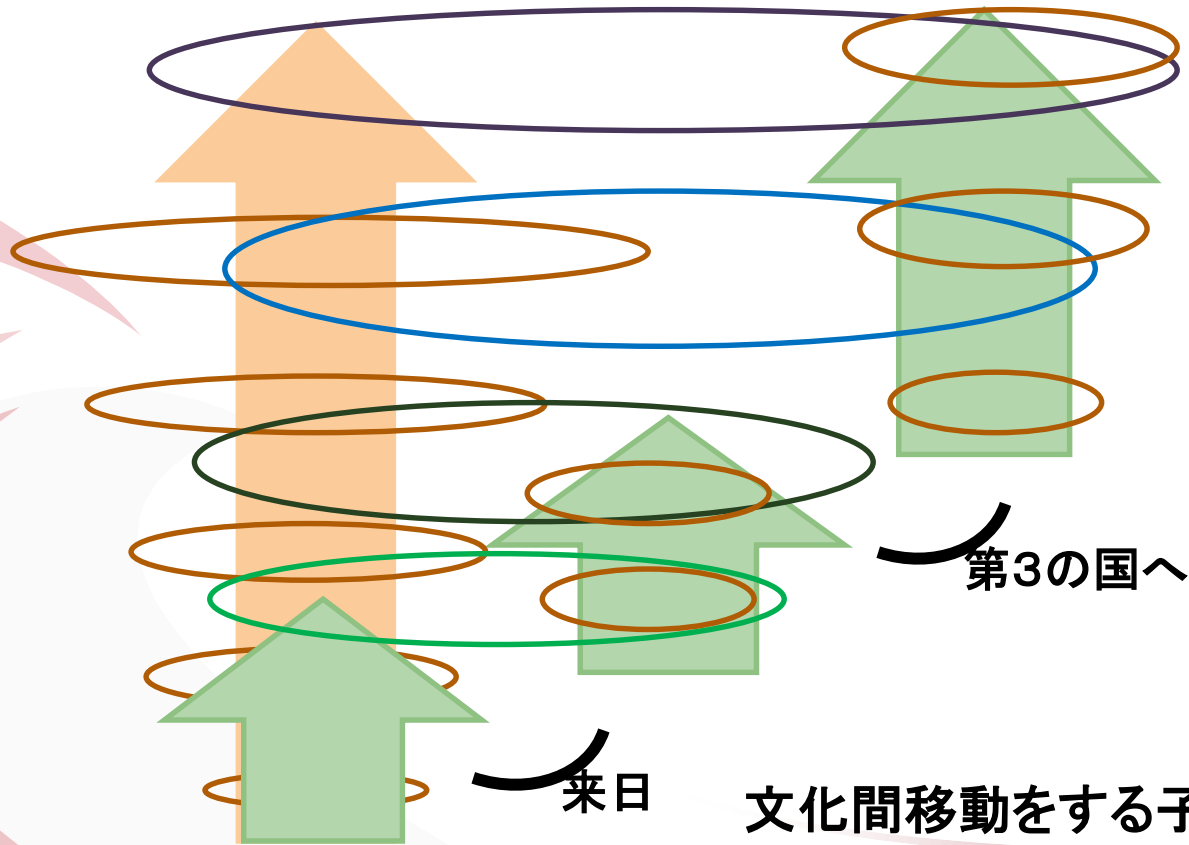
▲パッチワーク的な分析 → 結果を包括的に解釈できるようにする

◇地域のこの学校の子どもたちの「言語環境」が影響か？

出来事作文では見られない、力も！

8 研究の結果をどう生かすか

文化間移動がない子どもたちのライフコース



文化間移動をする子どもたちのライフコース

リテラシーに着目

単なる読み書きの力ではなく、
社会との関わりの中で、
子どもたち自身が、ライフコースを拓き、歩むための力として、テキスト（話し言葉も含む）を理解し、編み出す力を育みたい！

参考文献

- ・ 生田裕子(2002)ブラジル人中学生の第一言語能力と第二言語能力との関係-作文タスクを通して, 世界の日本語教育12, pp.63-77
- ・ カミンズ・ジム著, 中島和子訳著(2011), 言語マイノリティを支える教育, 慶応義塾大学出版会
- ・ 真嶋潤子(2012), 平成21年度—平成23年度科学研究費補助金基盤研究(C)研究成果報告書課題番号21610010 日本語母語児童への国語教育と非母語児童への日本語教育を言語刊行から構築する試み
- ・ 中島和子・ロサナ・ヌナス(2001), 日本語獲得と継承語喪失のダイナミクス-日本の小・中学校ポルトガル語環境にある子どもの実態を踏まえて[http://www. Japanese teaching.org/ATJseminar/2001/nakaJima.html](http://www.japanese-teaching.org/ATJseminar/2001/nakaJima.html)(2012年5月30日)
- ・ OECD(2006)*Where Immigrant Students Succeed:A Comparative Review of Performance and Engagement in PISA 2003* (齋藤里美監訳(2007)移民の子ども学力 社会的背景が学習にどのような影響を与えるのか, 明石書店
- ・ 櫻井千穂(2013), 日本在住の言語的マイノリティの子どもの二言語能力の関係-物語文野聴解・再生課題の分析を通して, 2013年度異文化間教育学会第34回大会発表抄録, pp.130-131
- ・ 佐野愛子・中島和子・生田裕子・中野友子・福川美沙(2012), 海外在住小中学生のバイリンガル作文力—二言語高度発達型と二言語低迷型の質的分析 母語・継承語・バイリンガル教育研究会2012年大会, 5-7.

<科研の報告>

- ・ 齋藤ひろみ・鳶田陽子・菅原雅枝・森篤嗣・阿部志野歩・北澤尚(2014)「日本生育外国人児童の作文力に関する調査—小学2-6年生の「出来事作文」の計量的分析—」『国際教育評論』No.11, pp.53-65
- ・ 齋藤ひろみ・森篤嗣・北澤尚・菅原雅枝・鳶田陽子・工藤聖子・阿部志野歩(2014)「日本生育外国人児童のリテラシー発達を迫る—作文縦断調査の多面的分析」『社会言語科学』第16巻第2号, pp.90-98

学術研究助成基金助成金(基盤C)

課題番号:23520615 期間:平成23-25年度

研究課題:日本生育外国人児童のリテラシー発達に関する
基礎研究—日本語作文の縦断調査—

メンバー

森 篤嗣(帝塚山大学)

北澤 尚(東京学芸大学)

菅原雅枝(東京学芸大学)

協力者

内田紀子(茨城大学)

畠田陽子(国立国語研究所非常勤)

阿部志野歩(東京学芸大学大学院修了)

田井聖子(東京学芸大学院生)

田中瑞葉(東京学芸大学院生)